

## 《企業紹介》

同社はカナダのシアトルで1971年に創業した世界最大のコーヒーチェーン店「スターバックス」を展開する企業である。進出済みの国は世界84カ国、店舗数は34,630店(2022年4月3日時点)となっている。同社は顧客にコーヒーを味わう場所を提供するため、単に良質のコーヒーを提供するだけでなく、店員のサービスや店舗の雰囲気にもこだわり、徹底した差別化とブランド力向上を図ってきた。これが同社の強みとなっており、世界のあらゆる場所で「スターバックス」店舗の有無が都市や街の評価を左右するほどのブランドとなっている。

## 《FY2021 (2021年度) 業績》

同社のFY2021(2021年10月3日締)の2021年12月期の営業収入は前期比23.6%増の290億ドル、税引後利益は同352.4%増の41億ドルだった。大幅な増収増益となったのはFY2020がコロナウィルス感染症の感染拡大によって減収となった反動が主要因だが、集客力や商品力の一段の向上も貢献したと考えられる。FY2021の既存店売上高は同20%増となり、このうち来店数が同10%増、客単価が同9%増となっている。期末店舗数は北米以外の地域を中心に同3.6%増の33,833店(FY2020期末、2020年9月27日現在の店舗数は32,660店)となっている。

図表1 年度別の業績推移 (単位 百万ドル)

	FY2017	FY2018	FY2019	FY2020		FY2021	
					前期比 (%)		前期比 (%)
営業収入	22,387	24,720	26,509	23,518	-11.3	29,061	23.6
粗利益	6,855	7,352	7,488	5,119	-31.6	8,435	64.8
粗利益率 (%)	30.6	29.7	28.2	21.8	-6.4%p	29.0	+7.2%p
営業費用	2,721	1,593	2,787	3,557	27.6	2,699	-24.1
営業利益	4,135	5,759	4,701	1,562	-66.8	5,737	267.3
税引前利益	4,318	5,780	4,466	1,164	-73.9	5,357	360.1
税引後利益	2,885	4,518	3,599	928	-74.2	4,199	352.4

注 同社の決算は各年9月末を基準に週数単位で締め日が決まっている。FY2021は2021年10月3日締め、FY2020は2020年9月27日締めとなっている。

出所 ロイターのデータおよび会社資料をもとに当社作成

## 《FY22Q2 (2022年度第2四半期) 業績》

2022年5月3日(現地時間)に発表された同社のFY22Q2(2022年度第2四半期、4月3日締)の業績は、営業収入が前年同期比14.5%増の76億ドル、営業利益は同3.9%減の9.4億ドル、税引後利益は同2.3%増の6.7億ドルだった。2桁増収だったが営業減益となっている。これは粗利益率が同3.5%ポイント低下したためだ。粗利益率悪化の要因はインフレによる資材費や輸送費の上昇、ロックダウンによる中国事業の操業度の低下、米国を中心とした人件費や福利厚生費の上昇などが挙げられる。

図表2 四半期業績推移 (単位 百万ドル)

	FY21Q1	FY21Q2	FY21Q3	FY21Q4	FY22Q1		FY22Q2	
						前年同期比 (%)		前年同期比 (%)
営業収入	6,749	6,668	7,497	8,147	8,050	19.3	7,636	14.5
粗利益	1,833	1,852	2,324	2,382	2,124	15.8	1,855	0.2
粗利益率 (%)	27.2	27.8	31.0	29.2	26.4	-0.8%p	24.3	-3.5%p
営業費用	920	865	835	36	946	2.8	906	9.4
営業利益	914	988	1,489	2,347	1,178	28.9	949	-3.9
税引前利益	808	890	1,411	2,248	1,062	31.4	876	-1.6
税引後利益	622	659	1,153	1,764	816	31.1	675	2.3

注 同社の四半期決算は各月末となっていない。FY22Q2は2022年会計年度第1四半期(2022年4月3日締)、FY22Q1は2022年度第1四半期(2022年1月2日締)の各3ヶ月決算を示している。

出所 ロイターのデータおよび会社資料をもとに当社作成

### ニューズ証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より180日

News20220512

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。

# スターバックス(SBUX)



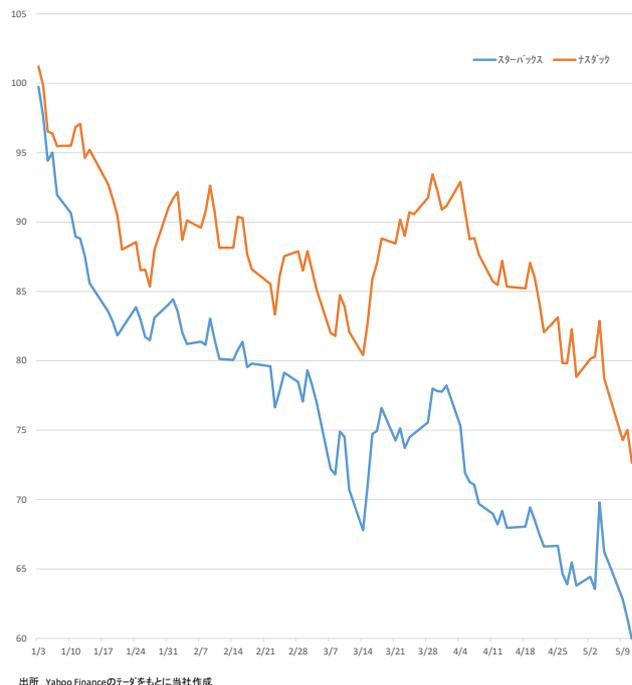
同社の FY2017 から FY2021 までの 4 期間の年平均成長率は営業収入が 6.7%、税引後利益は 9.8% だった。これに対して FY22Q2 の営業収入は前年同期比 14.5% 増と 4 期間の年平均成長率を上回っているが、税引後利益は同 2.3% 増と 4 期間の年平均成長率を下回っている。同社は販売価格の引き上げといった対応策を講じているが、足元の厳しい状況が予想以上に長期化したり、深刻化したりするようであれば、FY2022 において、これまでの平均的なペースの成長を達成できないリスクもあるだろう。

## 《株価の推移》

同社の株価とナスダック総合指数を 2021 年末の終値を 100 としてそれぞれを指数化したものが図表 3 だ。同社の株価パフォーマンスはナスダック総合指数のそれを大きく下回って推移している。5 月 11 日の終値 70.06 ドルで計算した同社の時価総額は 803 億ドル(米国ヤフーファイナンス)で、これは 2021 年 12 月期実績の税引後利益 41.6 億ドルの約 19 倍の水準となっている。

米国のインフレが短期間で収束する可能性は低くなっており、人件費の上昇も続いている。中国のロックダウンも終了の目処が立っていない。インフレが鎮静化しても金利引き上げによる景気減速や消費低迷のリスクもある。同社の年初来の株価パフォーマンスにはこういった不透明感が大きく影響している可能性がある。

図表3 株価の推移



### ニュース証券株式会社【関東財務局長(金商)第138号】

加入協会 日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 主な事業 金融商品取引業

有効期限作成日より 180 日

News20220512

本資料は情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は信頼できる情報源から作成したものです。その正確性を保証するものではありません。統計数値は過去の実績であり将来の成果を保証するものではありません。外国株式は、価格変動リスク、為替変動リスク、カントリーリスク、会計基準変更リスク、流動性リスク、取引相手先リスク(カウンターパーティーリスク)、機会損失、その他リスクがあります。ご投資をする際には、上記価格変動及び為替変動により投資元本を下回るおそれがありますので、約款・投資ガイド及び契約締結前交付書面をよく読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等を十分ご理解の上、投資家ご本人様の判断にて行ってください。